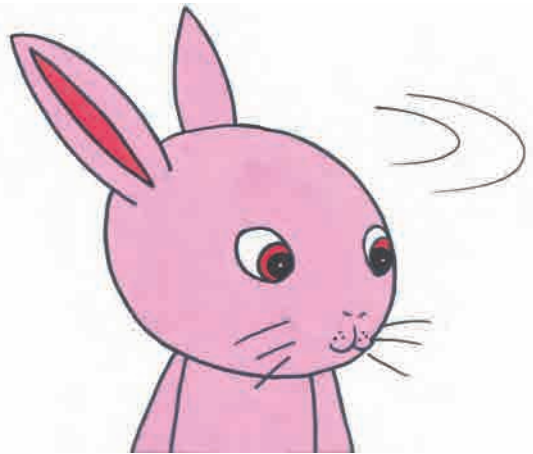


# 目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (味覚編)
- 3 あそびうた あっちむいて右
- 4 今月の詩 顔 八木重吉
- 5 たし算 8の段
- 6 ことわざ うわさをすれば影がさす 運は天にあり  
牛に引かれて善光寺参り 馬の耳に念仏
- 7 かけ算 9の段
- 8 俳句 与謝蕪村 小林一茶 野沢凡兆
- 9 かぞえうた 1軒 1台 1句 (家、カメラ、俳句)
- 10 なぞなぞ
- 11 手あそびうた わたしのこびと
- 12 音の絵本 ゾウ コアラ ブタ サイ オオカミ
- 13 イメージストーリー リード君 (第8話 おかたづけ)  
(イメージしてみましよう)
- 14 今月のうた 投げない
- 15 おはなし しっぽのつり
- 16 童謡 汽車
- 17 漢詩 秋浦の歌
- 18 百人一首 伊勢 素性法師 能因法師 三条右大臣
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

《あっちむいて<sup>みぎ</sup>右》

あっちむいて あっちむいて <sup>みぎ</sup>右 <sup>みぎ</sup>右  
こっちむいて こっちむいて <sup>ひだり</sup>左 <sup>ひだり</sup>左  
あっちむいて <sup>うえ</sup>上  
こっちむいて <sup>した</sup>下  
あっちむいて <sup>ひだり</sup>左  
こっちむいて <sup>みぎ</sup>右  
あっちむいて こっちむいて ほうほうほうほう



かお  
顔

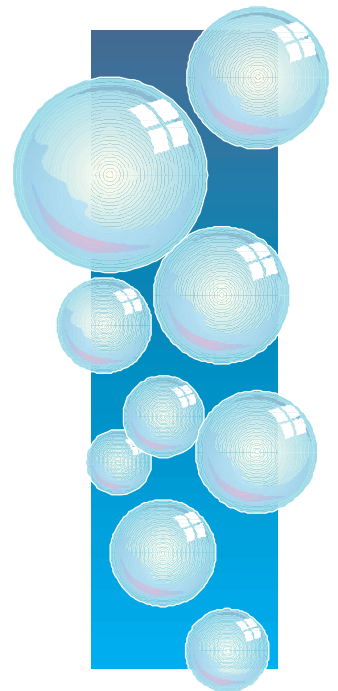
や ぎじゅうきち  
八木重吉

どこかに

ほんとう きにかお  
本当に気にいった顔はないのか

かおとお  
その顔をすたすたと通りぬければ

せかい き  
じつにいい世界があるような気がする



# ことわざ

## うわさをすれば影がさす

ある人のうわさ話をすると、ちょうど当人があらわれるものである。



## 運は天にあり

人間の運は天から授かるもので、人の力ではどうにもならない。



## 牛に引かれて善光寺参り

ほかのことに誘われて、偶然良い方に導かれること。



## 馬の耳に念仏

いくら意見や忠告をしても、少しも聞き入れようとしないこと。



# 俳句

ことりく 小鳥来る おと 音うれしさよ いた 板びさし

よ 与 謝 蕪 村



さび 淋しさに めし 飯を食うなり あき 秋の風

こ 小 林 一 茶



もの 物の音 おと ひとり 倒るる か 案山子かな

の 野 沢 凡 兆



# なぜなぜ

- 1 道<sup>みち</sup>を<sup>ある</sup>歩くのは<sup>にが</sup>苦<sup>て</sup>手<sup>だけ</sup>だけれど、<sup>こおり</sup>氷<sup>うへ</sup>の上<sup>だ</sup>と<sup>スイ</sup>スイ<sup>スイ</sup>すべるものな<sup>あ</sup>に？
- 2 <sup>ゆき</sup>雪<sup>うへ</sup>の上<sup>を</sup>ころが<sup>す</sup>たびに、<sup>ふと</sup>どん<sup>どん</sup>太<sup>っ</sup>て<sup>い</sup>くもの<sup>な</sup>あに？
- 3 <sup>ゆき</sup>雪<sup>うへ</sup>の上<sup>に</sup>二<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>の<sup>せん</sup>線<sup>を</sup>ひ<sup>い</sup>て<sup>す</sup>べ<sup>っ</sup>て<sup>い</sup>くもの<sup>な</sup>あに？
- 4 ひも<sup>を</sup>つ<sup>け</sup>て、<sup>そら</sup>空<sup>たか</sup>高<sup>く</sup>あ<sup>げ</sup>るもの<sup>な</sup>あに？  
<sup>うみ</sup>海<sup>なか</sup>の中<sup>に</sup>い<sup>る</sup>生<sup>い</sup>き<sup>もの</sup>物<sup>と</sup>同<sup>おな</sup>じ<sup>な</sup>名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>だよ。



《わたしのこびと》

① ひだりに



ひだり<sup>て</sup>手を  
パーにする

② 1、2、3、4、5にん



おやゆびからじゅんに  
1ぽんずつゆびをおる

③ みぎにも



みぎ<sup>て</sup>手を  
パーにする

④ 1、2、3、4、5にん



おやゆびからじゅんに  
1ぽんずつゆびをおる

⑤ あわせて



て  
手を1かい  
たたく

⑥ 10にん



りょう<sup>て</sup>手を  
ひらく

⑦ わたしのこびと



て  
手をむねのまえで  
こうささせる

⑧ このかお



みぎのゆびで  
ほっぺをさす

⑨ あらってくれます



ひだりのゆびも  
ほっぺをさす

⑩ プルプルリン  
プルプルリン

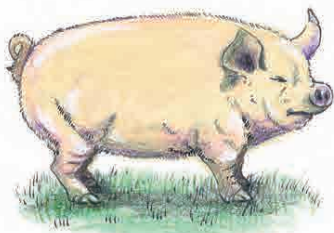
かおをあらう



# 音の絵本

今月は、いろいろな鳴き声です。

- 1) ゾウ
- 2) コアラ
- 3) ブタ
- 4) サイ
- 5) オオカミ



ブタ



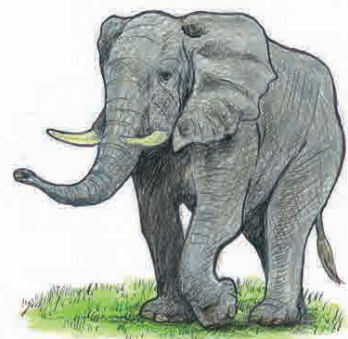
コアラ



オオカミ



サイ



ゾウ

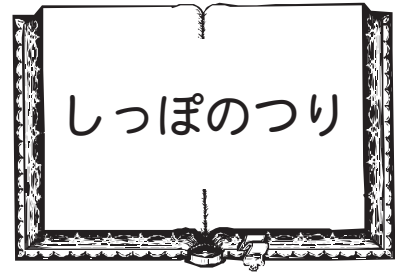


《<sup>な</sup>投げない》

<sup>な</sup>投げていいのは ボールだけ  
おもちゃを<sup>な</sup>投げたら イタイ イタイ  
<sup>つ</sup>積み木を<sup>な</sup>投げたら イタイ イタイ  
<sup>え</sup>絵本を<sup>な</sup>投げたら イタイ イタイ  
みんな<sup>な</sup>投げたら イタイ イタイ と <sup>な</sup>泣いている  
<sup>やさ</sup>優しく <sup>だいじ</sup>大事に<sup>わた</sup>渡そうね

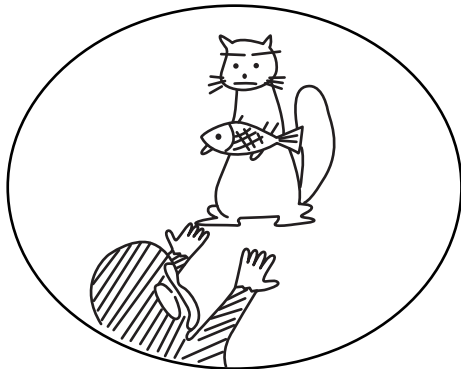
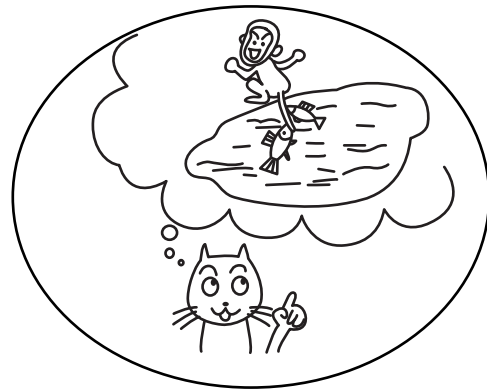
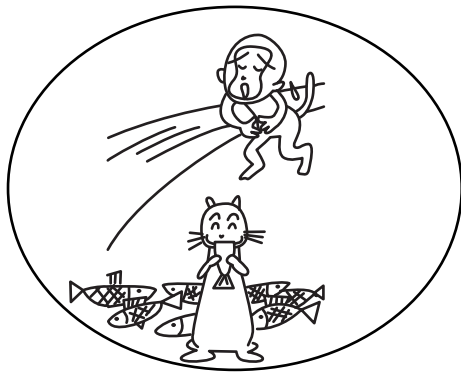
<sup>な</sup>投げていいのは ボールだけ  
スプーンを<sup>な</sup>投げたら イタイ イタイ  
<sup>さら</sup>お皿を<sup>な</sup>投げたら イタイ イタイ  
コップを<sup>な</sup>投げたら イタイ イタイ  
みんな<sup>な</sup>投げたら イタイ イタイ と <sup>な</sup>泣いている  
<sup>やさ</sup>優しく <sup>だいじ</sup>大事に <sup>わた</sup>渡そうね





「しっぽのつり」は、しっぽが短くて顔が赤くなってしまったサルのお話です。  
お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 サルはどうしてお腹がペコペコになっていたのですか？
- 2 かろうそは、どうやって魚をとっていましたか？
- 3 かろうそがサルに教えた魚のとり方は、どんなとり方ですか？
- 4 サルのしっぽがなかなかぬけなかったのは、どうしてですか？
- 5 サルのしっぽは、どうなりましたか？



秋浦の歌

李

白



白髪三千丈  
 愁ひに縁りて  
 箇くのごとく長し  
 知らず  
 明鏡の裏  
 秋霜を得たるを  
 何れの処にか

百人一首

難波 瀉なにながた

短き蘆のふしの間も  
逢はでこの世を過ぐしてよとや

(伊勢)

今来むといまこむん

言ひしばかりに長月の  
有明の月を待ち出でつるかな

(素性法師)

嵐あらし

三室みむろ

の山のもみぢ葉は  
竜田の川の錦なりけり

(能因法師)

名な

逢坂おうさか

に負はば  
人の知られでくるよしもがな

(三条右大臣)



伊勢